

令和7年度

学校教育計画

大阪府立東住吉高等学校

(目次)

1 学校教育活動の方針

(1) 学習指導の方針

(2) 特別活動の方針

(3) 道徳教育及び生徒指導の方針

(4) 進路指導の方針

(5) 人権尊重の教育の方針

(6) 健康管理と指導の方針

(7) 学校組織の運営方針

(8) 教員の研修方針・研修計画

2 校務分掌

(1) 校務分掌表

(2) 学年主任、ホームルーム担任一覧表

(3) 生徒会活動、部活動担当者（顧問）一覧表

1 学校教育活動の方針

(1) 学習指導の方針

生徒の進路選択への関心と力を高め、生徒一人ひとりの進路希望と特性に応じた学習指導の充実に努める。学習意欲を持ち、自学自習のできる生徒を育成する。

(ア) 教育課程に関して

- 新しい教育課程を進めながらこれを検証し、生徒の学力が最大限に伸長する教育課程となるよう研究する。
- 科目選択に際し、個々の進路に応じた選択ができるよう図る。2年次での文理選択導入により、進路希望に沿った科目選択を早期に行うことで生徒の興味・関心を喚起し、主体的な学習につなげる。

(イ) 学力向上のために

- 「予習→授業→復習」の重要性を、ホームルーム・通常授業・放課後進学講習・夏期、冬期講習等あらゆる機会を通じて徹底させる。
- 「授業」に集中するためには、基本的な生活習慣を確立することが重要であることを生徒に理解させる。
- 「授業力の向上」の取組みを充実させる。生徒による授業アンケート（年2回）や教職員相互の授業見学ならびに各教科による研究授業・研究協議を通し、生徒の満足度の高い授業を全教員が行えるよう取り組む。
- 模試の土曜実施、体育祭・文化祭やボランティアマラソンなどの学校行事への参加をとおして、生徒の自主性の育成をサポートする。

(ウ) 各教科

• 国語

基礎的な漢字力、語彙力、国語の一般教養を身に付けさせるとともに、論理的な文章の読解力と記述力、文学的な文章の鑑賞力を養成する。グラフやデータを客観的に読み取る力やいくつかの文章を比較・検討する力を育成する。古語・古典文法及び漢文の基礎知識について、反復的に学習し、現代に繋がる文化、精神を読み取る力を育てる。

授業においては、個人発表、グループ学習なども取り入れ、アクティブラーニングの要素も取り入れる。

現代文・古文・漢文の多彩な文章に慣れ親しみ、国語に対する感性を磨く。様々な文章を通して、現代社会の問題に気付き、他者の意見を正確に受け止めるとともに自分の考えを深め、発展させる。

• 地歴公民

日本史探究 第一志望実現に向けた大学進学に対応できる内容を取り上げるとともに、資料集や図表を活用して過去の歴史からの教訓と未来への考察力を養う。

世界史探究 視覚的な教材や具体的なエピソードをあげながら、その時代の空間をイメージできるように心がけて授業を展開する。また、大学入試に充分対応できるように、配慮する。

地理総合 写真・グラフ・地図などを用いて、資料から地理に関するさまざまな情報を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができるように工夫する。

歴史総合 歴史総合の目的は知識を用いて課題を考察し、自身の言葉で表現できるようになること、そして、私たちが生きる現代はどのような歴史を辿っていったのかについて興味関心を持ってもらうことである。授業では、分かりやすい説明や、生徒同士の意見交換を通して歴史的分野に興味関心を持ってもらえるよう工夫する。

公共 現代の社会で起きる様々な問題について、「なぜ？」を意識し取り上げ、この社会で生きる一員として、他の意見なども参考に自ら考え発信する力を養う。

・数学

- ・2年数学Ⅱの授業において少人数での授業を実施している。少人数により細やかな指導ができ、基礎力・応用力を身に付けさせることができる。
- ・学習習慣の定着のために、宿題（主に宿題プリント・問題集等）をしっかりと与えていき、小テストも適宜行っていく。
- ・放課後や長期休暇期間などに、基礎力充実のための補習、応用力を身に付けさせるための講習を実施していく。

・理科

科学と人間生活	人間生活に密接に関係することを中心に、物理、化学、生物、地学の各分野の基本を学習する。
物理基礎	力学、波動の現象を通じて自然法則を理解する。公式など数学的手法に慣れ知識の定着を図る。
物理	物理基礎の内容をさらに深めることで、自然法則に対する理解を一層深める。
化学基礎	実験や図解を用いて基礎事項を確実に理解させ、問題演習により知識や理解力の定着をめざす。
化学	演示を含めた実験の活用により生徒の興味関心を喚起し、物質の理解や自然現象について論理的な思考力を重視しながら問題を解決できる力の育成をめざす。
生物基礎	日常生活や社会との関連の深い事柄を 学習し、興味、好奇心を進化させながら、生物学的な考え方を深化させる。
生物	知識の習得だけでなく、「生物」という授業を通して、事実に基づいた正しい自然観、生命観を養う。さらに、地球規模の環境問題にまで視野を広げ、考える力をつける。

・英語

- ・1年次は、論理・表現Ⅰで少人数の習熟度別授業を行い、英語の基礎力（英文法）を身につけさせる。少人数制のメリットを活かし、きめ細かな指導を実施する。（毎回の予習のチェック、小テスト実施、復習プリントで反復練習） また、1年次の英語コミュニケーションⅠ、論理・表現Ⅰで「聞くこと」「話すこと」を中心に英語運用能力を高める指導を充実する。
- ・2年次は、英語4技能の習得に重点を置きながら、文法・構文・長文読解の基礎力の定着、応用力の養成、語彙力の充実をめざす。
- ・3年次は、英語4技能の習得に重点を置きながら、長文読解能力の養成、多岐にわたる問題形式に慣れ、実践力をつけさせる。
- ・様々な機会を活用して、異文化理解促進や国際感覚の養成をめざす。
- ・全学年、朝のSHR時に英語の単語テストを実施し、語彙力を養成する。（週2回の割合）
- ・全学年、目的に応じた講習・補習を実施する。
- ・「英検」の資格取得を動機づけ、挑戦させる。

・家庭

人の一生に関わる保育・衣食住・家庭経済・高齢者福祉の営みや共生・防災について学習し、生徒一人一人の自立をめざす。実践力を身につけるため、生活そのものを対象とした実習や体験学習を重ね、さらに地域社会と連携することで主体的に行動できる力を養う。加えて、令和4（2022）年度から成人年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえ、消費者教育の充実を図る。

視聴覚教材の活用・・・新聞、書籍、DVD教材等で具体的な場面を見聞き、学習内容の理解を深める。

- 保健体育
 - 生徒の実態に即した指導により、体力の増強を図る。筋力トレーニングを必ず行う。
 - 生徒各自が、自分の体力を把握し、主体的に体力強化の工夫と努力する習慣を身につける。チーム、個人、グループ等での学習の取組み方法を工夫し、目標に向けて学習しやすい環境をつくる。
 - 自らの能力・体力を知り、その向上を図るためとして、水泳・持久走を重点種目とする。水泳では4泳法取得を最終目標にし、1年次ではクロール・平泳ぎの苦手な生徒に対し講習を行う。持久走では個に応じた目標や課題設定を行いつつ全生徒の体力向上を図る。
 - 健康に対する知識や正しく把握できる力をつける。
 - 安全に配慮し行動できるよう事故防止を徹底させる。
 - 配慮の必要な生徒の実技指導においては、教材・方法を工夫する。
- 情報
 - 情報に関する科学的な見方、考え方を働かせ、情報技術を適切かつ効率的に活用して問題解決し、情報社会に主体的に参画するための資質、能力を次の通り育成する。
 - コンピュータやデータの活用について、理解を深め、技能を習得する。
 - 情報と様々な事象を結びつけ、問題の発見・解決に向けて情報技術と効果的に活用する力を養う。
 - 実習を通して、情報技術を適切に活用しながら、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
- 芸術
 - 芸術における基礎的な知識・表現力を習得する。また、校内・校外を問わず作品発表会やコンサートにおいて、その成果を自ら発表できる力をつける。
 - 様々な課題に取り組むことによって感性を磨き、自主的に考え創造する力を育てていく。
 - 芸術関係、教育関係に進路希望する生徒に対しては、個別指導を行い、進路達成へ支援をおこなう。
- 芸能文化科
 - 各年次において、バランスよく芸能の歴史や理論・実技を学習する。3年間を通じて、芸能を文化として総合的に理解し、発展させることのできる能力を育てることを通じて、コミュニケーション力・表現力のある人材育成を行っている。また、日々の授業に加えて、劇場等で上演される『芸能作品』については、鑑賞実習を実施している。その際、舞台上の演技だけではなく、舞台美術、舞台裏、技術スタッフなどの見学も実施し、授業内容についての深まりをめざしている。
- 共生推進教室
 - 「ともに学び、ともに育つ」教育をより推進する。
 - 健全な社会生活を営むうえで必要な道徳性を高め、主体的により良い職業生活を継続して送ろうとする力を育む。
 - 全ての生徒に違いを認め合いながら協働する力や尊重する態度を養う。

(2) 特別活動の方針

学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身の健全な発育を促すとともに、豊かで充実した学校生活を経験させることによって自主的、自律的な生活態度を養い、有為な社会人としての資質を育てる。

- 学校行事である体育祭、文化祭の企画・運営方法を工夫し、一層の充実を図る。
- 生徒会活動、部活動において、生徒が自主的、自発的に生き生きと活動するようにする。
- 地域や社会のためのボランティア活動等に積極的に参加することに生徒会活動を通して取り組む。
- 部活動と学習の両立をめざし、活動内容や時間を工夫した指導を心がける。

(3) 道徳教育及び生徒指導の方針

社会の形成者としての自覚や忍耐力・責任感を養い、公共のマナーやルールを守るなど、規範意識を身につけさせるとともに、他者の立場で物事を考える生徒の育成をめざす。豊かな人間性、夢や理想の実現に向かって生きる力、志を持って自立していくために必要な能力、よりよい社会を創っていく態度の育成に努める。

- 「あいさつ運動」の実施
登校時の校門指導・駐輪指導、ホームルーム・ショートホームルームにおける担任指導により、あいさつ・整列駐輪を身につけさせる。
- 遅刻の防止
遅刻については、担任及び学年生活指導の遅刻担当者が、粘り強い対話指導を実施する。遅刻をしないことの意義を意識化する。
- 交通安全指導、マナーアップ
- インターネットやSNSなど、人との関わり方が変化する中で、人権意識の一層の向上を図る。

(4) 進路指導の方針

生徒の第一志望の実現を目指し勉強させることで、大学入学以降も通用する学力の素地を養い、受験勉強を通じて人間的にも成長させる。

1. 教職員、生徒ともに「授業」の尊重と充実
2. 進路情報の発信、進路ガイダンスの充実
3. 教職員への情報発信、学校全体の進路指導への機運を高める
 - 予備校などの入試の分析会を案内、職員会議での進学に関する情報を定期的に発信、教員の進路に対する意識を向上させる。
 - 『進路の手引き』を作成し、卒業生の合格実績、合格体験談、最新の入試情報、各教科の勉強の仕方を掲載、本校の生徒と保護者のニーズに即した進路情報を発信する。
 - 外部講師による教員向け模試の分析会を行う。その中で、他校の実践例を共有、最新の入試情報のアップデートをはかる。また、コンパスやファインシステムスタディサプリなどのオンラインツールを進路指導にいかすためのノウハウを提供する。

(5) 人権尊重の教育の方針

生徒自らが権利の主体であると同様に他者も権利の主体であることを認識したうえで、それぞれの権利を尊重する態度を育成する。

教職員研修の実施により、教職員の人権感覚をいっそう磨くとともに生徒の人権意識の高揚に努める。

全校生徒対象の人権講演会を実施し、生徒の人権感覚の向上を図る。

- 1年 「仲間とつながる」をテーマに、人権学習や日常の様々な活動を通じて、生徒の人権に対する理解を深める。また、学校生活と人権に関するアンケートを行い、生徒の意識実態を調査し、その結果を分析し対処する。
- 2年 「社会とつながる」をテーマに、人権学習や日常の様々な活動を通じて、社会における人権問題に対する理解を深め、自他の存在を認め合う健全な価値観の育成を図る。
- 3年 「未来とつながる」をテーマに、人権学習や日常の様々な活動を通じて、社会人としての豊かな人権感覚を形成させるための準備をさせる。

(6) 健康管理と指導の方針

生徒の学習活動や自己実現のための健康的な環境づくりと安全な環境づくりをめざす。

1. 心身障がいの早期発見と綿密な保健指導
2. 自主的な健康管理・増進のための指導
3. 安全教育の推進
4. 環境整備・美化の徹底
5. 保健教育
6. 生徒支援委員会・特別事情検討委員会との連携
 - 熱中症予防講習会

- ・薬物乱用防止教室
- ・救急法講習会
- ・防災訓練
- ・生徒保健委員会、美化委員会指導

(7) 学校組織の運営方針

運営委員会を中心に学校課題を検討し、組織として積極的に解決に取り組む。授業力向上のため、教員の授業見学に積極的に取り組ませる。広報活動（HP、学校説明会）を充実したものにす。PTA活動をさらに充実したものにし、保護者、教員が協力して生徒をサポートする体制を整える。

1. HPを通じた情報の発信の活性化を図るため、以下の3点に取り組む。
 - ・閲覧者が見やすいものにする。
 - ・できるだけリアルタイムに情報発信する。
 - ・更新の頻度を高める。
2. 学校説明会の内容を充実したものにすため、職員一丸となって取り組む。特に本校の強みである生き活きとした「生徒力」そして、それをサポートするプロ集団としての「教員力」この2点を念頭に、親切、丁寧な説明会を心掛け、既成概念にとらわれない新アイデアも出していきたい。
3. PTA活動を定着させ、行事での活動を促進する
4. 学習環境の整備
 - ・学校薬剤師による環境調査（水質・照度・騒音・換気等）を基準にして校内の環境衛生の維持・向上に努める。なお、必要に応じて講習会を開く。
 - ・事故災害を未然に防止するために各期1回の安全点検を行い安全衛生委員会で事故処理について検討する。
 - ・自習室を運営。早朝・放課後・土日も開放することにより、どの生徒も落ち着いて学習できる環境を確保する。また、進路資料室に赤本や入試概要、学校パンフレット、自由に使えるPCを設置することにより、進路情報の発信の拠点とする。
5. 教職員と進路指導部との連絡強化と強固な共通理解をはかる。

適切な進路指導のためには、教職員の自発的な学習が不可欠となるが、それを手助けする機会、資料の提供、外部講師を招いての進路分析会を実施する。また、外部で開催される入試分析会や研究会等を紹介する。

(8) 教員の研修方針・研修計画

豊かな人間性を培うとともに、社会の変化に対応するための知識・技能や国際社会で必要とされる資質能力の向上のために、職員研修の充実を図る。

特に新学習指導要領の確実な実施や、観点別学習評価を進めていくため、プロジェクトチームを編成し、組織的に研修する機会を設ける。教科等の専門性の向上のため各教科研究会や府教育庁主催の研修・講習会には積極的に参加し、その概要について校内で伝達する。

今年度の教員対象の研修会としては、共生推進教室が設置されて5年めを迎えたことにより、進路指導の在り方、生徒の実態把握の方法や目標設定、評価の方法について理解を深める機会を設定することにより、ともに学び、ともに育つ教育を推進する。

2 校務分掌

(1) 校務分掌表

総務部 三野 幸雄	図書	山田	新井						
	儀式・集会	三野	成川	山田	田中有	新井			
	施設・物品・視聴覚	浮邊	片岡						
	GIGA	麓	片岡						
	業者対応（食堂等）	田中有							
	広報	成川							
教務部 前田 貴史	庶務	三野							
	時間割・考査	青木	田宮	兼田	平岡	渡慶次	松向寺	西川	
	特別教育活動	竹村	田宮	兼田					
	庶務・出欠統計	田宮	前田						
	学年教務	竹村	津川	青木	田宮	中原			
	教科書・副読本	渡慶次	平岡	兼田					
	シラバス	渡慶次	平岡	兼田					
生活指導部 鳥羽 厚史	校務処理	松向寺	田宮						
	総務・研究会	鳥羽							
	遅刻指導	黒石	近松	石井	鳥羽	細見	康村	三井	
	みだしなみ指導	細見	康村	三井					
	集会指導	石井	黒石						
	紛失物管理	近松	黒石						
	生徒相談	松木	近松						
保健体育部 吉井 昌幸	自転車指導	近松	黒石	佐藤紀	鳥羽				
	保健	井上	佐藤環	吉井					
	環境	矢奥	古橋	中山	越智				
	行事	伊東	矢奥	古橋	吉井				
	委員会活動	越智	伊東	古橋					
進路指導部 佐伯 宏治	相談	吉井	井上	佐藤環					
	全体統括	佐伯							
	庶務・総務	佐伯							
	1年進路係	小次	川畑						
	2年進路係	田中千	古野						
	3年進路係	至田	納谷						
	情報処理係	熊本	坂井	米津					
	奨学金係	米津	森岡	坂井	砂田				
	医療・看護系学校	瀬戸	森岡						
	就職・公務員係	奥野	米津						
	模試係	川畑	古野	納谷					
	志連携係	小次	田中千	至田					
生徒会部 村井 健太	指定校係	砂田	奥野	瀬戸					
	共生進路係	奥野	森岡						
	総務	村井	安達	吉田					
	執行部指導	神原	安達						
	会計	安達	廣本	村井					
	体育祭	村井	安達	岡本	神原	星田	中川	廣本	吉田
	文化祭	村井	安達	岡本	神原	星田	中川	廣本	吉田
選挙	吉田	神原	安達						
クラブ指導	廣本	神原	吉田	安達					

◎専門委員会 (◎印は責任者 ○印は担当者)

- ・運営委員会 ー 校長 ◎教頭 事務長 安達 成川 久下 三野 前田 鳥羽 吉井 佐伯 村井 裏野 川原 辻本 川光
- ・人権教育推進委員会 ー ◎教頭 ○越智 津川 佐藤紀 田宮 黒石 納谷 鳥羽
- ・芸能文化科委員会 ー ◎久下 西川 片岡 砂田 渡慶次 岡本 伊東 中山
- ・共生推進委員会 ー ◎川光 平岡 奥野 神原 康村 田中千 川原 片岡 小次

各分掌の仕事分担

総務部

- イ) 式典・全校集会に関する事項
- ロ) 図書館運営に関する事項
- ハ) 視聴覚教室・機材に関する事項
- ニ) GIGA に関する事項
- ホ) 広報に関する事項
- ヘ) 新一年生（合格者）受け入れに関する事項

教務部

- イ) 教育課程に関する事項
- ロ) 生徒の入学・転（編）入学・進級・卒業に関する事項
- ハ) 学校行事計画に関する事項
- ニ) 校務処理システム運用に関する事項
- ホ) デジタル採点システムの運用に関する事項

生活指導部

- イ) 生徒の集団指導に関する事項
- ロ) 生徒の個人指導に関する事項
- ハ) 生徒の褒賞懲戒に関する事項

保健体育部

- イ) 生徒・職員の保健衛生に関する事項
- ロ) 校内環境整備に関する事項
- ハ) 学校保健委員会に関する事項
- ニ) 生徒の相談、カウンセリングに関する事項
- ホ) 防災安全に関する事項
- ヘ) 学校行事における保健指導に関する事項

進路指導部

- イ) 生徒の進路指導に関する事項
- ロ) 奨学金事務に関する事項

生徒会部

- イ) 生徒会活動全般に関する事項

(2) 学年主任、ホームルーム担任一覧表

○:学年主任

1年	学科	人数	担任	副担	副担
1組	芸文	39	岡本 美佳	西川 克也	
2組	普	41	小次 由里子 片岡 紀子	新井 正子	坂井 美菊
3組	普	40	竹村 美智瑠	米津 博志	
4組	普	40	裏野 真悟	井上 亜季	
5組	普	40	津川 純	吉井 昌幸	
6組	普	40	川畑 泰人	村井 健太	奥野 里奈
7組	普	40	越智 政治	石井 悠太	渡慶次 亮
8組	普	40	細見 和史	佐藤 紀子	
学年計		320			
普通科		280			
芸文科		39			
共生		1			
2年	学科	人数	担任	副担	副担
1組	芸文	39	伊東 翔吾	久下 英孝	
2組	普	40	康村 英幸 神原 将太	瀬戸 知哉	熊本 義之
3組	普	40	田中 千尋 神原 将太	前田 貴史	黒石 貴志
4組	普	41	川原 大輔 神原 将太	矢奥 雅子	平岡 諭
5組	普	40	青木 透流	山田 明輝	松木 莉花
6組	普	40	浮邊 大希	吉田 俊平	
7組	普	40	古野 仁也	松向寺 通仁	
8組	普	40	田宮 優大	田中 有美子	
学年計		320			
普通科		278			
芸文科		39			
共生		3			
3年	学科	人数	担任	副担	副担
1組	芸文	35	中山 朝子	砂田 瑞貴	
2組	普	39	麓 博之	森岡 亜沙美	古橋 聡子
3組	普	39	納谷 健	廣本 美幸	
4組	普	40	辻本 昌弘	近松 恵子	佐藤 環
5組	普	39	三井 勝規	兼田 照久	
6組	普	39	星田 直純	鳥羽 厚史	三野 幸雄
7組	普	38	中原 哲二	中川 紗代	
8組	普	40	至田 雅一	佐伯 宏治	
学年計		309			
普通科		274			
芸文科		35			
共生		0			

普通科(全)	832
芸文科(全)	113
共生	4
全体	949

(3). 生徒会活動・部活動担当者（顧問）一覧表

ア. 生徒会顧問

村井、安達、星田、神原、岡本、中川、廣本、吉田

イ. 部顧問一覧

運 動 部					文 化 部				
1	陸上競技	中原	伊東	片岡	1	漫画研究	中原	渡慶次	米津
2	サッカー	村井	前田	三井	2	演劇	西川	久下	中山 岡本
3	ラグビー	川原	兼田	石井 吉田	3	美術	砂田	細見	佐伯 小次
4	男テニス	田宮	伊東		4	放送	星田	浮邊	康村 森岡
5	女テニス	西川	鳥羽	前田 村井 吉田 瀬戸	5	吹奏楽	中山	川原	田宮 納谷
6	男バレー	川畑	安達	田中有 新井	6	茶道	川光	裏野	古野 古橋
7	女バレー	安達	成川	川畑 廣本	7	ESS	田中有	片岡	青木 新井
8	男バスケ	康村	細見	三野 星田	8	ギター マンドリン	佐藤環	田中千	辻本
9	女バスケ	成川	鳥羽	松向寺 細見 中川	9	書道	岡本	松向寺	西川
10	バドミントン	越智	青木	矢奥 浮邊 佐藤紀 奥野	10	家庭科	麓	坂井	矢奥
11	卓球	辻本	岡本	砂田 山田 古野 津川	11	ボランティア	三井	伊東	神原 川畑
12	剣道	神原	佐藤環	坂井 渡慶次	12	理科研究	至田	熊本	平岡 黒石
13	水泳	津川	三井	越智 中川 石井	13	軽音楽	津川	森岡	星田 山田 佐藤環 辻本
14	山岳	竹村	井上	麓 神原	14	合唱	竹村	松木	廣本
15	ダンス	田中千	小次	佐伯 古橋 近松 瀬戸	15	パソコン	三野	井上	米津
16	空手	至田	熊本	平岡 黒石	16	競技かるた	川光	久下	吉井 佐藤紀 近松
17	硬式野球	裏野	納谷	吉井 兼田					

ウ. クラブ所属生徒数

	1 年			2 年			3 年			合 計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
陸 上	6	2	8	5	3	8	6	1	7	17	6	23
サッカー	21	1	22	21	1	22	8	3	11	50	5	55
バレー(男)	9	3	12	21	3	24	5	1	6	35	7	42
バレー(女)	0	8	8	0	3	3	0	4	4	0	15	15
バスケ(男)	11	2	13	10	0	10	5	2	7	26	4	30
バスケ(女)	0	8	8	0	6	6	0	4	4	0	18	18
硬式テニス	2	0	2	3	0	3	2	0	2	7	0	7
軟式テニス	0	6	6	0	2	2	0	2	2	0	10	10
剣 道	2	1	3	0	1	1	3	5	8	5	7	12
水 泳	13	15	28	4	5	9	11	4	15	28	24	52
山 岳	3	0	3	2	0	2	3	1	4	8	1	9
ラグビー	2	4	6	4	1	5	4	1	5	10	6	16
卓 球	3	2	5	5	1	6	5	1	6	13	4	17
バドミントン	25	13	38	8	7	15	19	12	31	52	32	84
ダンス	2	25	27	2	17	19	1	26	27	5	68	73
空 手	4	0	4	1	1	2	3	0	3	8	1	9
硬式野球	12	3	15	5	0	5	7	0	7	24	3	27
計	115	93	208	91	51	142	82	67	149	288	211	499

	1 年			2 年			3 年			合 計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
吹奏楽	1	4	5	3	0	3	0	5	5	4	9	13
E・S・S	0	0	0	2	3	5	2	0	2	4	3	7
書 道	2	3	5	2	3	5	0	3	3	4	9	13
美 術	0	1	1	2	2	4	0	0	0	2	3	5
ボランティア	2	6	8	5	4	9	1	2	3	8	12	20
放 送	3	6	9	4	3	7	2	3	5	9	12	21
演 劇	3	10	13	6	8	14	2	4	6	11	22	33
茶 道	3	7	10	1	3	4	0	1	1	4	11	15
漫 研	0	2	2	1	1	2	1	0	1	2	3	5
家 庭 科	0	0	0	0	3	3	1	1	2	1	4	5
ギタ・マン	0	2	2	5	1	6	1	1	2	6	4	10
理科学研究	2	1	3	4	2	6	2	0	2	8	3	11
軽音楽	9	12	21	15	14	29	12	8	20	36	34	70
合 唱	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	2
パソコン	0	0	0	7	0	7	2	0	2	9	0	9
競技かるた	1	2	3	1	3	4	0	0	0	2	5	7
計	26	56	82	58	51	109	27	28	55	111	135	246